



これらは近年、市内で起こった被害の一部です。「もしもこのとき、この場所に自分や家族が居合わせていたら…」想像するとぞっとする、このような危険は身近にあります。



道路になだれ込んだ土砂



田畑への土砂崩れ



地盤が緩み、崩壊した用水路



道路に倒れかかった電柱



暴風雨で倒れた街灯



倒木で通行できなくなった歩道

## 雨の強さと降り方



1時間雨量	状態
10~20mm未満 (やや強い雨)	雨音で話し声が聞き取りにくい
20~30mm未満 (強い雨)	車のワイパーを早くしても前が見づらい。側溝や下水、小川があふれる
30~50mm未満 (激しい雨)	山崩れやがけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
50~80mm未満 (非常に激しい雨)	マンホールから水が噴出し、土石流など多くの災害が起こりやすい
80mm以上 (猛烈な雨)	雨による大規模災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

- ① 40mm以上で「大雨注意報」。災害が発生する恐れがあります。
- ② 60mm以上で「大雨警報」。重大な災害が発生する恐れがあります。警報発表中に土砂災害の危険性が高まると「土砂災害警戒情報」が発令され、避難勧告発令などの判断材料になります。

## 風の強さと吹き方



平均風速	状態
10~15m/秒未満 (やや強い風)	風に向かって歩きにくく、傘がさせない
15~20m/秒未満 (強い風)	風に向かって歩けない。高所での作業は極めて危険
20~25m/秒未満 (非常に強い風)	何かにつかまっていなくて立ってられない。風で飛ばされたもので負傷する恐れがある
25m/秒以上 (非常に強い風)	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れ始める

## 避難情報の発令



市は、降水量や前兆現象などさまざまな災害情報をもとに、防災無線やメール、市ホームページなどで「避難情報」を発令します。情報に注意し、状況に応じて早めに避難してください。

緊急性	種類	発令時の状況	住民に求める行動
	自主避難	災害の危険が迫っています	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて地域の公民館などに避難してください</li> <li>避難中の食事や生活必需品は自分で用意してください</li> </ul>
	避難準備情報発令	人的被害が発生する危険性が高まっています (避難に時間がかかる要支援者は避難開始)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者・病人・障がいのある人などは、支援者と早めの避難を始めてください</li> <li>非常時持ち出しを用意するなど、いつでも避難できる準備をしてください</li> </ul>
	避難勧告発令	人的被害が発生する危険性がさらに高まっています (通常の避難ができる人も避難開始)	<ul style="list-style-type: none"> <li>速やかに避難所に移動してください</li> </ul>
	避難指示発令	災害の前兆現象の発生や切迫した状況から、人的被害が発生する可能性が非常に高い、または実際に人的被害が発生した状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>まだ避難していない人は直ちに避難し、避難中の人は確実に避難を完了してください</li> <li>避難の時間的余裕がない場合は生命を守る最低限の行動をとってください</li> </ul>

# 命を守る 防災情報とわが家の備え

豪雨や台風の多い季節になりました。皆さんは、地震直後と同じくらしいの危機感で風水害対策ができていますか。地震はいつ起こるか分かりませんが、雨や台風は状況にある程度予測できるため、事前の情報収集と備え、心構えがとても重要です。対策が不十分なままでは、災害時の被害は予想以上に大きなものとなります。特にことは、地震の影響で地盤や設備、家屋の強度が落ちてくる恐れがあります。例年よりも厳重な備えと点検で、自分や家族、身近な人の命を守りましょう。

## 土砂災害

熊本地震の影響で地盤が崩れやすくなっています。少ない風雨でも土砂崩れが発生する恐れがあります。前兆現象に注意して、小さな斜面や川にもできるだけ近づかず、危険を感じたら早めに避難を。

### ●がけ崩れ 前触れ

- 小石が落ちてくる
- がけに亀裂が入る
- がけから水が湧き出す



### ●土石流 前触れ

- 山鳴りがする
- 流水が異常に濁る
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



### ●地すべり 前触れ

- 地面がひび割れる
- 井戸や沢の水が濁る
- 斜面から水が吹き出す



## 台風

降水量が多い季節です。9月ごろまでは台風による大きな被害も起こりやすいため、河川の氾濫や道路の冠水、床上浸水などにも注意が必要です。気象情報に注意して、風水害に備えましょう。

### ●情報収集と早めの備え

- 災害情報をこまめにチェック
- 避難情報などの発令に備え、市や県などの防災メールにも登録しておく



### ●身の回りの点検

- 動きやすい服や運動靴、頭を保護する防災頭巾やヘルメット、非常時持ち出し品などを準備



### ●家の周りの点検

- 風で飛ばされそうなものは強く固定するか室内へ
- 窓や雨戸を補強し、傷んだ設備はできるだけ事前に修繕を
- ※屋根の修繕など、高所作業は専門家に依頼

